

令和3年度 旭中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

《基本目標》

人間尊重の精神を基盤に、豊かな心と個性をもち、自主性・創造性を発揮して、たくましく生きる力を培い、広く世界を見つめながら、進んで社会の発展に貢献できる人間を育成する。

《目指す生徒像》

- ・健康でやる気のある生徒（健康な体と気力）
- ・自ら学び創造力のある生徒（自主的な学習）
- ・心豊かで思いやりのある生徒（豊かな心）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校経営のテーマ「誰もが安心して学び、活力にあふれる学校」

旭中学校の歴史と伝統に誇りをもち、学校と家庭・地域が支え合い、校風の継承と新しい時代にあった本校らしい教育の実践を通して、志と自信をもって生きることができ、地域を愛する生徒を育成し、誰もが安心して学び、活力にあふれる学校を目指す。

- 1 心身ともに健康で学ぶ意欲のある人間を育成するため、「知・徳・体」の調和がとれた教育課程を編成するとともに、秩序があり安心・安全な教育活動の実施に努める。
- 2 教職員の情熱と自覚、職務への責任感、協調性を高めることにより信頼される学校づくりの推進に努めるとともに、職務環境の適正化を進め、勤務意欲の向上を図る。
- 3 学校と家庭・地域との連携・協力を深め、積極的な情報発信と相互交流を大切にし、学校マネジメントシステムに係るPDCAサイクルを生かして、地域とともにある学校づくりを展開する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

本校のスローガン「Challenge！！」

1 確かな学力を身に付けさせるための学習指導の充実

- (1) 学力の基盤となる基本的な学習態度と学習規律を身に付けさせる指導を徹底する。 <B1>
- (2) 学習内容の基礎・基本の定着を図る指導と思考力・判断力・表現力等を育てる指導を展開する。
- (3) 主体的な学びや学習への達成感、課題解決を重視した授業展開の工夫・改善を図る。
- (4) ○総合的な学習の時間やキャリア教育を通して、自己の生き方を見つめる学習活動を充実する。
- (5) ○家庭における学習習慣の確立と適切な学習支援に努め、学習内容の定着を確実にする。 <B1>

2 豊かな人間性と社会性を育てる教育の推進

- (1) ○教職員と生徒の好ましい信頼関係を構築し、生徒のよさを認め励ます指導と共感的な人間関係を通して、一人一人の思いやりや協調性など豊かな人間性を育成する。 <B2>
- (2) 自己存在感・有用感がもてる学年・学級経営を実践し、集団生活の向上に寄与する態度を育てる。
- (3) 道徳や特別活動、部活動等の充実を図り、自律的かつ自主的・自治的に学校生活に取り組む態度を育成する。
- (4) ○正しい判断力と意欲を育てる指導に努め、基本的な生活習慣の確立や規範意識の醸成、対人関係能力の育成を図る。 <B4>
- (5) ○学校と家庭・地域との適切な連携・協力のもと、豊かな心や感性を培う体験的な活動を展開する。 <B3>

3 健やかな心身を育む教育の充実

- (1) 健康的な生活習慣を確立し、自ら進んで健康の増進に取り組む態度を育成する。 <B5>
- (2) ○心身ともにたくましく、気力があり、何事にも粘り強く取り組む態度を育成する。
- (3) 栄養バランスのよい食生活により活力ある生活を送るため、家庭との連携を図った食育の充実を図る。

4 新たな教育課題等への対応と業務の適正化

- (1) ○特別支援教育への理解と共通実践を推進し、インクルーシブ教育への適切な対応を行う。 <B2>
- (2) 不登校の未然防止と個々の状況を踏まえた対応の充実を図るため、組織的な指導支援と家庭及び関係機関等との連携協力を推進する。
- (3) ○小中学校教職員の相互理解と連携・協力を深め、小中一貫教育・地域学校園の取組の充実を図り、旭地域学校園教育ビジョン「地域に愛される旭っ子の育成」の具現化を目指す。
- (4) 校内美化・緑化やよりよい掲示環境、ICT機器の活用、学校図書館の充実などを通して、心豊かで主体的な態度を育む教育環境の充実に努める。
- (5) 学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、各教科等の授業研究を深めるとともに指導力の向上に努める。
- (6) 会議の精選、効率化等を通して、校内業務の適正化を図るとともに、時間を意識した働き方を推進する。
- (7) GIGAスクール構想の推進を通して、新たな学習スタイルの確立と業務の効率化を図る。

「地域に愛される旭っ子の育成」 ～地域との豊かなかかわりを通して～

地域社会の一員としての役割や責任を自覚し、家族や友人、地域の人々への感謝の気持ちを持ち、思いやりをもって接するとともに、元気にあいさつし、ルールやマナーを守るなどの社会性と基礎学力を身に付け、進んで身の回りの人々や地域のために奉仕的に行動できるこどもの育成を図る。

4 教育課程編成の方針

- ・「知・徳・体」の調和がとれた教育課程の編成
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業の実施
- ・育成すべき三つの資質能力（①実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能 ②未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等 ③学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力等）を明確にした教育活動の展開
- ・各種教育と各教科等の内容を相互に関連付けた計画作成による教科横断的な教育活動の展開

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

- 地域との連携推進による学校教育の充実と働き方改革の推進

【学習指導】

生徒の可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現

－基礎・基本の定着と学習習慣の確立－

【児童生徒指導】

一人一人の生徒に寄り添い、基本的生活習慣の定着と人として大切な心を育てる

【健康（体力・保健・食・安全）】

自己の健康・体力の向上をめざし、主体的によりよい生活習慣の確立と運動に取り組む生徒の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、**文頭に○印**または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

※評価中の**青字**は対象の数値指標を達成したもの、前年度比プラスとなった値

※評価中の**赤字**は対象の数値指標を達成できなかったもの、及び、前年比マイナスとなった値

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%	① 学習課題と考えるポイントを明確にした授業を通して、学びに向かう力（自らが学びたいと思い、学び続ける力）を育む。 ② タブレット型パソコンを活用した学習や自主学習ノートを通して、自ら課題を考えて取り組む態度を育成する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 100.0% 5.0 ・保護者の肯定的回答 91.4% 1.3 ・ 生徒の肯定的回答 92.5% 3.0 ① 10分間の朝の学習を週2日設定し、全校体制でA Iドリルに取り組んだ。各自が学びたい教科に臨み、家庭でも学び続けるようになりつつある。 ② ○自主学習ノートの取組（5年目）を通して、家庭学習の習慣化を図り、進んで学習に取り組む態度を育てつつある。 【次年度の方針】 ・タブレットを活用した学習方法を工夫し、進んで学習に取り組む態度を育成する。

A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85% 教職員の肯定的回答 85%	① 生徒一人ひとりが学級の構成員として、どんな立場の友人にも声かけや手助けをする実践力を養う。 ② 道徳の授業等を通していじめ問題について真剣に考え、いじめをなくす取り組みを心がけている。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 97.0% 7.0 ・保護者の肯定的回答 91.1% 2.0 ・地域住民の肯定的回答 100.0% 0.0 ・生徒の肯定的回答 90.6% 0.2 ① 一人ひとりに係等の役割があり、生徒が責任をもち、協力し合いながら活動することができた。 ② 道徳科のいじめの内容について、各学年とも時期を合わせ、指導することができた。今後も継続したい。 【次年度の方針】 ・学校行事等に合わせ、題材の指導の時期を工夫し、人との関わりやいじめの内容項目の指導に重点をおいて取り組む。
A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90% 教職員の肯定的回答 90%	① 教職員が生徒の模範となるようきまりやマナーを守ることを率先垂範することにより、教育活動全般においてきまりを守る姿勢を育てる。 ② 交通安全教室等の取組や、生徒同士で指摘し合えるよう指導していくことで、命の重さ、ルール・マナーを守ることの重要性を認識させたうえで行動する態度を育成する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 97.0% 9.5 ・保護者の肯定的回答 92.2% -1.0 ・地域住民の肯定的回答 100.0% 0.0 ・生徒の肯定的回答 92.3% 1.0 ① 教職員が生徒の模範となるよう行動したり、呼びかけたりしたことで、時間やマナーを守る生徒が増えてきている。 ② PTSC あいさつ運動は1回しかできなかったが、一斉下校時や部活動後に下校指導を継続的に行ったことで生徒の交通マナーは改善してきている。 【次年度への方針】 ・教職員が生徒の模範となる行動を学校全体で継続していく。 ・教職員の指導だけでなく、生徒同士がお互いに呼びかけ合っていけるような態度を育てられるようにする。
A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90% 教職員の肯定的回答 90%	① あいさつ運動を継続し、あいさつの意義を生徒に伝えることを通して、校内で会う友人、先輩後輩、先生、来校者など、相手に応じたあいさつができるようにする。 ② 授業や給食時等において、姿勢を整えはっきりと声に出してあいさつをする指導を行うことを通してあいさつの習慣化を図る。	A 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 78.8% 11.3 ・保護者の肯定的回答 86.9% -0.6 ・地域住民の肯定的回答 100.0% 0.0 ・生徒の肯定的回答 93.7% 1.1 ① PTSC あいさつ運動は1回しか実施できなかったが、小学校でのあいさつ運動の際には、積極的に参加する生徒が多かった。 ② 授業や、給食の時だけでなく、日頃の廊下ですれ違う時にもあいさつできる生徒が増えてきた。 【次年度への方針】 ・あいさつ運動をより活性化し、あいさつに対する意識を高めていく。また、部活動と連携してあいさつの習慣化を図っていく。 ・授業、給食または部活動を通して、所作を含め指導するとともに、教職員があいさつをより垂範していく。

A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85% 教職員の肯定的回答 90%	① 定期テスト毎に学習計画と反省を書かせ、自分の目標と到達度を視覚化することを通して、粘り強く取り組む態度を育てる。 ② 生徒が前向きな目標を立てられるように、適切な進路指導や丁寧な教育相談を行うとともに、生徒の努力を認め、励ましていく。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 100.0% 10.0 ・保護者の肯定的回答 86.5% 6.0 ・生徒の肯定的回答 87.4% 4.0 ① 学習計画表の作成により、明確な目標をもつことができ、高い意欲を維持したまま、テストに臨むことができた。 ② 教育相談や進路相談の時間を利用し、自己の生き方を見つめなおす機会を通して、生徒たちが前向きな目標を立てることができた。 【次年度の方針】 ・学習計画表を引き続き実施し、生徒たちに目標と達成度の視覚化を図っていく。 ・生徒たちが前向きな目標を立てられるように、個に応じたきめ細かい指導や励ましを行っていく。
A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%	① 定期健康診断を実施し、結果を通知することで、自身の健康に関心をもたせる。 ② 避難訓練を実施し、自らの命を守り抜くための行動力を身に付けさせる。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 97.0% 7.0 ・保護者の肯定的回答 91.5% -3.3 ・地域住民の肯定的回答 100.0% 8.3 ・生徒の肯定的回答 93.0% -1.8 ① 健康診断の結果を夏休み前に配布した。治療率が低い歯科に関しては、冬休み前に再度治療勧告書を配布した。 ② 年2回の避難訓練を行った。コロナ下であるためテレビ視聴と合わせた指導の工夫をした。避難の仕方もコロナ下に応じた計画ができた。 【次年度の方針】 ・コロナ下で、心身ともに健康に過ごすための生活習慣と知識を養える指導及び活動を行う。 ・避難訓練は、有事の際に命を守る行動を一人一人が取れるような計画を立てる。
A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85% 保護者の肯定的回答 85%	① キャリア教育アンケートやキャリア・パスポートを活用して自己の基礎的・汎用的能力を振り返らせ、その育成に努めさせる。 ② 道徳教育、キャリア教育を通して将来について考える機会や場面を増やし、自分の夢や目標を見つけそれに向かって努力する力を身に付けさせる。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 100.0% 10.0 ・保護者の肯定的回答 86.5% 6.0 ・生徒の肯定的回答 87.4% 4.0 ① キャリア教育アンケート調査を年度初めと終わりの2回実施した。基礎的・汎用的能力のアンケート結果から各個人・各学級・各学年の課題を明確にし、今年度の教育活動を実施することができた。 ② キャリアパスポートならびにキャリア教育に関する講話の機会を設けることで、自己理解や自分の将来を振り返る機会をつくることができた。 【次年度の方針】 ・基礎的・汎用的能力の育成および課題解決を図るための方法や場面について、より具体化していく。 ・各種年間指導計画へキャリア教育の視点を明確に位置付け、実践していく。 ・体験学習やキャリア教育に関する講話の機会を次年度も設ける。

A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%	① 必要な情報や概要・要点を聞き取ったり、読み取ったりさせる。 ② 関心のある事柄や日常的・社会的な話題について、やり取りさせたり、発表させたり、書かせたりする。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 93.9% -6.1 ・生徒の肯定的回答 85.0% 1.1 ① 音声や文字を用いた活動を通して、必要な情報や概要・要点を理解することができた。 ② 様々な話題について音声や文字を用いた活動を通して表現することができた。 【次年度の方針】 ・やり取りや発表を充実させるため、生徒の興味関心を引く題材を選び、その情報を収集する場面を設定する。 ・教師が適切な支援をし、生徒が英語でのやり取りに対して苦手意識を克服し、自信を付けるようにする。
A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%	① 地域ボランティアへの参加や総合的な学習の時間(宇都宮学)の活動等から宇都宮の良さを多く体験できるように工夫する。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 72.7% 25.2 ・保護者の肯定的回答 74.1% 6.8 ・生徒の肯定的回答 81.7% 6.6 ① 今年度もコロナ禍の影響で多くの制限がかけられた中、地域ボランティアの方による読み聞かせ会の実施や、2 学年社会体験活動による体験学習によって、地域の良さを体験させることができた。 【次年度の方針】 ・次年度は総合的な学習の「宇都宮学」に関する教材開発や地域ボランティアの参加、社会体験学習における地域の体験活動等から宇都宮や地域の良さに気付かせていく活動に重点を置いて取り組む。
A 10 生徒は、I C T 機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	① 生徒用タブレット型ノート P C 等を用いて調べ学習を行い、課題をまとめ、発表することで理解を深める。 ② 年鑑や統計など、様々な参考図書の調べ方を理解し、目的に応じた適切な参考図書を選び、有効に活用させる。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 100.0% 10.0 ・保護者の肯定的回答 84.6% 15.6 ・生徒の肯定的回答 86.7% 5.3 ① 生徒用タブレットを日常的に活用できたため、課題をまとめ発表するなど理解が深まった。 ② 国語の時間などで、図書を活用する機会を利用し、適切な参考図書を選び、発表データをまとめるなど活用することができた。 【次年度の方針】 ・効果的に学習に活用する方法を伝え、各教科等で実践をすることで、指標到達を目指す。 ・タブレットと図書の併用の利点・方法の説明が必要。

A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85% 地域住民の肯定的回答 85%	① 学校行事やプランターづくりの活動に高齢者を招待し、触れ合うことで、高齢者を身近に思える機会を作る。 ② 各教科や道徳科の授業で高齢者を扱う題材を通して、高齢者に対する理解を深め、いたわりの気持ちを醸成する。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 97.0% 7.0 ・保護者の肯定的回答 91.1% 2.0 ・地域住民の肯定的回答 100.0% 0.0 ・生徒の肯定的回答 90.6% 0.2 ① コロナ禍でもある社会の情勢を鑑み、実施することができなかった。 ② 道徳教育での高齢者を扱う題材、一学年「席を譲っただけなのに」二学年「思いやりの日々」三学年「ごめんね、おばあちゃん」等を通じて、高齢者に対するいたわりの気持ちを醸成できた。 【次年度の方針】 ・今年度の取り組みを継続するとともに、状況に応じながら、生徒が高齢者と触れ合う機会を作っていく。
A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%	① 各教科の学習や総合的な学習の時間の中で、「持続可能な社会」について学ぶ機会を活用し、自己を取り巻く環境について考えることで、「持続可能な社会」に対する理解を深める。 ② 地域のボランティア活動の機会を増やししながら、校内でもごみの分別等を推進し、環境を大切にすることを養う。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 72.7% 22.7 ・生徒の肯定的回答 78.2% 5.7 ① 各教科や宇都宮学でSDGsに触れる機会が多くあり、「持続可能な社会」への理解を深めることができた。 ② 地域のボランティア活動は、「釜川コケ落とし大作戦」など新規開拓をし、生徒が積極的に参加した。しかし、地域行事が中止となり、十分な活動の機会が提供できなかった。 【次年度の方針】 ・効果的に生徒が「持続可能な社会」を学ぶことができるよう、教材研究を進める。 ・地域のボランティア活動は、今年度以上の新規開拓の努力をする。
B1 教職員は、生徒が自主的な学習を進めることができるように、学習の進め方を指導している。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90% 生徒の肯定的回答 90%	① 自主学習の仕方や定期テストに向けた具体的な対策を各教科の授業や学年集会等で説明し、学習の手引きを活用して効果的な学習の仕方を指導する。 ② 火曜日と木曜日の朝の読書の時間（10分）にタブレット型PCを活用した学習活動を取り入れ、家庭での活用を見据えて、生徒が自主的に取り組めるよう、学習の進め方を指導する。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 97.0% 2.1 ・保護者の肯定的回答 79.2% -4.3 ・生徒の肯定的回答 91.1% -1.9 ① 学習の手引きを活用して生徒の自主的な学習への取組を促すことができた。 ② 自主学習ノートの優れた取組を紹介し、学級担任のアドバイスも加えて、個別指導の充実を目指したが、学級や学年により取組に差がみられた。 【次年度の方針】 ・来年度、AIドリルソフトが変更になることに対応しながら、家庭での活用を見据えて、生徒が自主的に取り組めるよう、学習の進め方を指導する。

A 13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%	① 教育相談部会、特別支援部会、特別支援教育校内支援委員会において情報交換をしっかりと行うと共に、報・連・相を確実に言いながら素早く対応する。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 100.0% 7.5 ① 各部会での話し合いで情報交換や情報共有が図れた。必要に応じて、SC を交えたケース会議を行った。早期に具体的な支援方法を話し合うことができ、支援につなげることができた。 【次年度の方針】 ・継続して支援を行うために、話し合いをこまめに行う必要がある。 ・短時間で話し合いができる体制の構築が必要である。
A 14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90% 教職員の肯定的回答 95% 保護者の肯定的回答 90%	① 道徳などの心の教育を重視し、いじめの未然防止の取り組みの充実を図るとともに、HP や各種便りを通して、取り組みを保護者や地域社会に積極的に発信する。 ② 教育相談や QU などをも十分に活用し、いじめの早期発見・早期対応を行うとともに、保護者との信頼関係を築いていけるように、適切な対応を心掛ける。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 100.0% 0.0 ・保護者の肯定的回答 81.8% 0.5 ・地域住民の肯定的回答 100.0% 0.0 ・生徒の肯定的回答 95.8% 1.2 ① いじめ未然防止のため、いじめ撲滅運動や、いじめについて考える道徳教材を扱うことができた。その取組についての発信を積極的に行うことができていなかった。 ② 教育相談や QU を行い、いじめの早期発見と対応を行うことができた。SNS 上での生徒同士の問題行動については把握することが難しく、早期の指導に遅れがおきることがあった。 【次年度の方針】 ・学校での取り組みについて、学級通信などを用いて保護者へ発信をする。また、SNS の使用方法についても引き続き指導を続けていく。
A 15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 80%	① 教育相談や三者懇談等を有効に活用しながら、家庭との連携を密にとり、問題があれば早期対応、早期解決をめざす。 ② レインボー教室の活用を通して、学校とのつながりを維持し、不登校を生まない環境作りを推進する。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 100.0% 2.5 ・保護者の肯定的回答 89.1% -1.2 ・生徒の肯定的回答 93.7% 2.2 ① 教育相談や日々の見取りの中で、共通理解の必要な生徒を学年及び教育相談部会で情報の共有を行うとともに、支援の方法について話し合うことができた。 ② レインボー教室の利用について、対象生徒の確認や使用方法について話し合うことができた。 【次年度の方針】 ・様々な背景をもった生徒の理解を深めるための研修会を行う。 ・チームで対応ができる体制の構築を、より強化していく。

A 16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%	① 日本語の習得が不十分な外国人生徒の日本語の指導を計画的に行い、今年度の目標を設定させ、個人内評価を工夫する。 ② 日本語の指導講師やボランティアの方、また学級担任や学年主任と密に連絡を取り、継続的に学習に取り組めるよう支援していく。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 100.0% 7.5 ① 個別の指導計画の策定、目標の設定を行ったことで、個に応じた適切な指導ができた。 ② 外部指導者、関係機関および関係職員との連携を図ったことで、効果的な学習支援や進路指導支援が行えた。 【次年度の方針】 ・学級担任や教科担任等と情報を共有しながら、外部指導者等と連携し、日本語能力に応じた指導の工夫を図る。
A 17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90% 保護者の肯定的回答 95%	① 学校行事や学級活動、生徒会活動において、生徒の主体的な活動をするための場を取り入れ、認め励まし、自己有用感を育てる。 ② 生徒の実態に即した指導計画を立て実践し、充実した学校生活が出来るように支援していく。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 100.0% 10.0 ・保護者の肯定的回答 94.8% 1.5 ・地域住民の肯定的回答 100.0% 0.0 ・生徒の肯定的回答 88.3% 2.0 ① 生徒の主体的活動を可能な限り実施することで生徒の自己有用感を高めることができたため生徒の肯定的回答の向上につながった。 ② 活動の制限があるなか状況に合わせて計画を変更しながらも実施し、生徒の充実した学校生活につながった。 【次年度の方針】 ・感染症拡大に伴う制限の状況を踏まえながら、臨機応変に対応し、内容の充実を図り生徒の自己有用感を高め、充実した学校生活を送れるよう支援していく。
A 18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%	① 学習課題の提示、習得・活用・探究の時間を確保し、生徒による振り返りと教師によるまとめを明確にした授業を展開する。 ② 知識・技能を活用して考えさせたり、自分の考えを表現させたりして、思考力・判断力・表現力等を育成する。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 100.0% 2.5 ・保護者の肯定的回答 85.5% -1.1 ・生徒の肯定的回答 92.7% 3.0 ① ○教員が互いに授業を見て授業改善を図り、きめ細かな指導へとつなげた。 ② ○習得・活用・探究する時間を確保して、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力の育成へとつなげた。 【次年度の方針】 ・新学習指導要領に基づく指導と評価の一体化を図り、学習課題の振り返りや思考力・判断力・表現力の育成を図る活動を通して、主体的に学習に取り組む態度（調整と粘り強さ）を育む。

A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%	① 学校経営のテーマや、スローガンを学年フロアへ掲示したり、印刷物の中に記載したりすることで、全職員がより意識を高めて、業務を進められるようにする。	B 【達成状況】 ・ 教職員の肯定的回答 87.9% 0.4 ① 前期はコロナ禍の状況が落ち着き、多くの行事を実施することができた。学校経営のスローガンのもと昨年度以上に、学年間の枠を超え、連携して教育活動に取り組むことができた。 【次年度の方針】 ・ スローガンを日常的に目にする場所に掲示するなど、掲示する場所を工夫することで、より全職員がスローガンを意識しながら教育活動を実践していけるようにする。
A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員肯定的回答 80%	① チーム学校として、SC、SSW、かがやきルーム指導員等と連携、協力して役割分担を図り、効果的な手立てを講じる。 ② 部活動地域指導者を有効活用した部活動の充実を図る中で、教員の業務縮減を行う。 ③ タブレットやパソコンを利用した情報共有や生徒への問題提示等、紙印刷の手間を省くことで教員の業務縮減を行う。	A 【達成状況】 ・ 教職員の肯定的回答 63.6% -13.9 ① 今年度もSC、SSW、かがやきルーム指導員、スクールサポートスタッフ、ICT支援員と連携して効果的な手立てを講じることができた。特に、スクールサポートスタッフの活用は、職員の大きな業務縮減につながった。 ② 野球部、陸上競技部では、年に数回ではあるが地域指導者によるアドバイスや激励などにより、生徒たちへ良い影響を及ぼした。ただ、業務縮減となるようなものではなかった。 ③ ミライムやグーグルクラスルームの活用で、職員間の連絡や回覧等、仕事の効率化を行うことができた。また新型コロナウイルス感染症に係る臨時休業中、生徒との連絡やプリントの配布などにタブレットを利用することで、学びを止めない活動を行うことができた。 【次年度の方針】 ・ 職員の勤務時間の意識改革はまだ十分とは言えない。リフレッシュデー等からひとりひとりが勤務への意識を改めていく必要がある。 ・ 本年度は、定期テストの日の部活動をなくし、採点にあてられるようにするなど改善を行ってきたが、さらなる業務の精選で働き方改革を進めていく必要がある。

A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 80%	① 地域学校園あいさつ運動の充実や行事等における小中の連携、中学生によるボランティア活動の充実を図る。 ② 各学校の課題を明らかにして、地域学校園各部会の取組を充実させる(学力向上部会・特色ある学校づくり推進部会・連携部会・学校園事務室)	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 81.8% 1.8 ・保護者の肯定的回答 84.7% -4.7 ・地域住民の肯定的回答 100.0% 0.0 ・生徒の肯定的回答 73.8% 8.8 ① ○コロナ禍における取組を考え、小中一貫のあいさつ運動や乗り入れ授業など実施回数を縮減して実施した。 ② 今年度から新たな組織構成となり、各校がそれぞれの担当を主体的に取り組めるようになった。ただ、今年度もコロナ禍の影響で地域学校園各部会の集まりは代表のみの会議となり、学校園の先生方全員が参加する教科部会は実施されなかった。 【次年度の方針】 ・各校副校長を組織長とした学校園の構築という新たな組織構成となったがゆえに、全職員で取り組むという意識の改善がより一層求められる。
A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 教職員肯定的回答 80%	① 地域コーディネーターとの連携により、地域協議会との協力体制を構築し、学校支援の取組を推進する。(学校環境整備、読み聞かせ活動等)	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 97.0% 4.5 ・保護者の肯定的回答 88.6% 0.7 ・地域住民の肯定的回答 100.0% 0.0 ・生徒の肯定的回答 81.3% 6.2 ① 今年度はコロナ禍の中、感染予防を施しながら、花壇の整備や各教室での読み聞かせを行うことができた。 【次年度の方針】 ・地域コーディネーターとの連携を高めるとともに、コロナ禍においても実施できるような工夫のもと、読み聞かせ等の教育活動を進めていく。
A 23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 80%	① 保護者会、三者懇談等を活用し、保護者との連携を図る。 ② 社会人の方からの講演やボランティア活動を通してより良い生徒の育成を行う。また、PTA との連携を深め、学校運営の充実を図る。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 97.0% 4.5 ・保護者の肯定的回答 88.6% 0.7 ・地域住民の肯定的回答 100.0% 0.0 ・生徒の肯定的回答 81.3% 6.2 ① コロナ禍で制限される中、工夫を凝らしながら、学年行事や保護者会、三者懇談を行い、生徒の様子を保護者に伝えることができた。 ② 11 月にとちぎ未来大使夢講座を実施。セルジオ越後氏の講演を体育館および各教室で生徒たちに聞かせることができた。 【次年度の方針】 ・今年度の経験を活かし、コロナ禍であっても保護者や地域との連携を高めていけるような取組を工夫して実施する。

A 24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 85% 地域住民の肯定的回答 85%	① 毎月1回、児童生徒等が使用する校地、運動場、教室、特別教室、廊下、昇降口、ベランダ、階段、便所、手洗い場、給食室、屋上などについて、計画的に、組織的に安全点検を実施する。 ② 学校行事の前後や、災害発生時等、必要があるときは臨時に安全点検を実施する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 100.0% 0.0 ・保護者の肯定的回答 93.8% 1.5 ・地域住民の肯定的回答 100.0% 0.0 ① 月に1回の安全点検を実施し危険個所の把握と修繕ができた。 ② 学校行事の前や台風の前等、安全の確認を行い危険個所の把握と修繕ができた。 【次年度の方針】 ・日常的に問題意識をもって、安全に配慮する。
A 25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%	① 授業中の視覚効果を高めるため、生徒用タブレット型PCや実物投影機等を整備するとともに教員研修を行い有効に活用できるようにする。 ② 司書が授業に参加し、参考図書のアドバイスをしたり、前年度の調べ学習等で不足している本の補充をしたりするなど、必要な本が探しやすいよう工夫する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 100.0% 10.0 ・保護者の肯定的回答 84.6% 15.6 ・生徒の肯定的回答 86.7% 5.3 ① 生徒用タブレットを日常的に活用できたため、課題をまとめ発表するなど理解が深まった。 ② 司書が参考図書を補充し、テーマごとにまとめ、生徒が利用しやすいよう用意した。国語・家庭科の時間など、授業で有効活用できた。 【次年度の方針】 ・教科単元に合わせた資料の充実を図る。タブレットと図書の併用型調べ学習の拡大を図る。
B 2 教職員は、生徒同士が互いに認め合える環境作りをしている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 85% 生徒の肯定的回答 90%	① 行事等の振り返りワークシートの中に他の生徒の取組を認める項目を設ける等の工夫をするとともに、各種便り、HP等で学校の取組を保護者に積極的に発信していく。 ② 道徳の授業をはじめとする学習活動の中にグループ活動を取り入れるなど互いの意見を交わす場を設定し、他者の考えに触れさせ、その考えを共有し、尊重し合える場を設定する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 97.0% 4.7 ・保護者の肯定的回答 86.8% 2.1 ・生徒の肯定的回答 92.7% 1.5 ① 行事等の振り返りワークシートの中で、生徒の取組を認める項目を設け、教室に掲示することができた。各種便り、HP等で学校の取組を保護者に積極的に発信することができた。 ② 授業をはじめとする学習活動の中にグループ活動を取り入れ、互いの意見を交わす場を設定することができた。他者の考えに触れさせ、その考えを共有し、尊重させることができた。 【次年度の方針】 ・授業時の意見交換にジャムボードを活用させることで、考えの共有を広く、効率的に行わせたい。

本校の特色・課題等	B3 学校や地域は、生徒が自主的に地域の行事に参加し、活動することを支援している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85% 地域住民の肯定的回答 80%	① 年間を通して地域の行事に自主的に参加する機会を設定し、地域と共に支援することで、地域貢献の意識を高める。 ② 地域行事への参加の様子を収めた写真などを、学校 HP に掲載したりすることで、生徒の達成感を高める。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 90.0% 1.2 ・保護者の肯定的回答 80.6% -4.4 ・地域住民の肯定的回答 100.0% 0.0 ・生徒の肯定的回答 83.6% -2.1 ① ○コロナ禍のため地域の行事がほとんどできない状態であった。 ② 校内に学校生活の写真を掲示することはできたが、地域の行事への参加に関するものは掲示できなかった。 【次年度の方針】 ・コロナ禍の中で、生徒の安全をいっばんに考慮しながら、地域ボランティアや宮まつり後の奉仕作業、親子奉仕活動の計画や実施の方向性について考えていく。
	B4 学校や地域は、定期的に登校指導や下校指導を行い、登下校時のマナー向上や生徒の自発的なあいさつの浸透を図り、「地域に愛される旭っ子」の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85% 教職員肯定的回答 90% 地域住民の肯定的回答 90% 保護者の肯定的回答 85%	① 保護者・教職員・生徒・地域が一体となって行う PTSC あいさつ運動を計画的に行い、教職員で連携を取りながら下校指導を行う。 ② 地域未来会義を活用して、「地域に愛される旭っ子」の実現に必要なことについて、学校、地域と生徒の意見を共有する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 87.6% -1.6 ・保護者の肯定的回答 83.5% -3.0 ・地域住民の肯定的回答 100.0% 0.0 ・生徒の肯定的回答 90.4% 4.4 ① 昨年度は開催できなかった、PTSC 挨拶運動が開催することができ、保護者・教職員・生徒・地域が一体となって登校指導することができた。また、交通担当教員を中心に、生徒の下校が早い日には下校指導を行えた。 ② 地域協議会では、SDGs について話あったため、十分に「地域に愛される旭っ子」の実現に必要なことについて、学校、地域と生徒の意見を共有することができなかった。 【次年度の方針】 ・コロナ禍の中でも、PTSC 挨拶運動を中心にマナー向上を図っていく。
	B5 学校や家庭は、生徒が主体的によりよい生活習慣を確立し、心身ともにたくましく、規則正しい生活習慣を身につけられるよう支援している。 【数値目標】 保護者の肯定的回答 85% 生徒の肯定的回答 85%	① 学校行事はコロナ対応を行いながら、達成感や充実感が得られるような課題や活動を組み込んでいく。 ② 「マイ・ライフ・チェック」を7月・1月に実施し、実態の把握と生徒への意識付けを行い、規則正しい生活の習慣化を図るとともに、指導に活用する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 100.0% 5.1 ・保護者の肯定的回答 89.3% -0.9 ・生徒の肯定的回答 96.7% 3.9 ① 毎朝の体温計測をタブレットを活用し管理した。学校行事は、コロナ感染症対策を行いながら安全に実施できた。 ② マイ・ライフ・チェックの実施はしなかったが、宿泊を伴う学校行事の前には、保健だよりをもとに、1週間前から規則正しい生活を送れるよう指導を行った。 【次年度の方針】 ・専門委員会、学校行事、各教科等を通して、生活習慣を身に付けさせる。その際に、保健だより、食育だより、各種だよりを活用する。

7 〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・アンケート全 30 評価項目（内 5 項目は独自項目）中 21 評価項目で対象者数値指標を達成することができた。また、肯定的回答の割合が 80%以上の項目は全体の 90%となり、今年度の本校の取組は妥当であったと評価できる。
- ・教職員・保護者・地域住民・生徒の肯定的回答を昨年度と比較すると、63.7%の増加が見られた。また昨年度肯定的回答 100%と高い評価を得た 12 項目が引き続き 100%の肯定的回答となる等、継続した取組の成果が表れている。
- ・今年度の課題の一つであった生徒のあいさつ（A4）については、昨年より教職員の肯定的回答が 11.3 ポイント、生徒の肯定的回答が 1.1 ポイント上昇しているが、市平均と比べると低く、差が見られた。
- ・夢や目標への粘り強い取組（A5・A7）については、教職員・保護者・生徒ともに肯定的回答の増加が大きく、市平均よりも上回った。特別活動を中心としたキャリア教育を学校全体として取り組んだことが成果となって表れているものと考えられる。
- ・保護者による肯定的回答で顕著な増加が見られた項目は ICT 機器や図書等活用（A10・A25）であった。授業をはじめ、タブレット端末を日常的にも活用していることが評価につながったものと考えられる。
- ・保護者による評価では、小中一貫教育への取組や地域行事への参加について肯定的回答が低くなっており、コロナ禍での活動の制限が影響しているものと考えられる。
- ・地域の方からは、高い評価をしていただき、すべての項目が 100%の肯定的回答となった。
- ・教職員による評価では、業務の効率化（A20）の肯定的回答が最も低く、市平均よりも低い。

8 学校関係者評価

- ・コロナ禍において、様々な点で評価判断が難しい中でも、各項目の評価が高いところで維持し、または上がっていることは、大変評価出来る。学校、生徒たち、地域の各立場でそれらを実感できるように、さらに密に連携し、協力を進めることが大切だと感じる。
- ・コロナ禍であるが、あいさつ運動やブックトークを実施することができ、地域と生徒との交流がもててよかった。
- ・地域未来会議において、生徒自ら 2030 年に向け、SDGs に取り組んでいきたいという発表があり、身近なものから改善策を考え、地域と話し合うことができ、今後を楽しみに思う。

9 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

- ・コロナ禍において、様々な制限のある中でもできることを考えながら実践してきたことが、評価項目の肯定的回答が増加している要因であると考えられる。次年度も活動の見直しや工夫をしながらしっかりと取り組んでいきたい。
- ・保護者の方や地域の方が学校行事や授業参観など学校へ来る機会がなくなり、学校や生徒の様子が分からず評価することが難しいという意見が見られた。今年度は、生徒の様子を実際に見ることのできるよう工夫してきたが、コロナ禍の状況を見極めながら、さらに充実した情報発信に努めていきたい。
- ・地域との交流や地域の行事への参加などがコロナ禍のため実施することがほとんどできず、生徒の活動も制限されてしまった。意欲的に活動したいと考えている生徒も多く、可能な範囲で取り組めるよう工夫していきたい。
- ・今年度課題としていたあいさつについては、肯定的回答の向上は見られるものの、市平均との差が見られた。あいさつ運動をより活性化し、あいさつに対しての意識を高めていくとともに、教職員があいさつをより垂範して取り組んでいきたい。
- ・昨年度初めて生徒に質問した「地域から愛されている、大切にされていると感じる」の肯定的回答は、昨年度の 86%から 90.4%に伸びた。地域学校園の教育ビジョンに関わる質問であるので、今後、この割合が伸びるよう家庭、地域、小学校と連携していきたい。